

株主の皆様へ

当社は昨年、新中期経営計画「MOL ADVANCE」をスタートさせましたが、その初年度である当期に、計画をはるかに上回る1,903億円という純利益を達成しました。グローバル経済のパラダイムシフトが海運業の成長を加速する今日、業界をリードする当社は一層の利益成長を目指し、将来その成果を株主の皆様と分かち合いたいと思います。

代表取締役 会長 鈴木 邦雄

代表取締役 社長 芦田 昭充



収益力と財務体質の向上

当期業績は、純利益が1,903億円と6期連続の過去最高益の更新となったほか、当社が重視する利益指標である経常利益でも同じく過去最高の3,022億円と大幅な増益を記録し、中期経営計画の初年度としては、願ってもないスタートを切ることができました。

船隊整備に相当額の資金を投じる当社にとって、ギアリングレシオ(有利子負債/自己資本)を1.0以下とすることは永年の願いでしたが、当期末にはついに0.88まで引き下げることができました。加えて、自己資本は6,800億円を超え、当社が目指す「業界のリーダーたるにふさわしい資本力を有するグローバル企業」へ向けて、着実な歩みを実感しています。

過去数年間にわたる好業績の主因は、当社がドライバルク船を中心に、マーケットの潮目の変化をうまく捉えることができたことにあります。つまり、海運業の構造的な変化をいち早く読み取って将来的な顧客ニーズを予測し、リスクを見極めた上で、果敢に経営の舵をきったことが、今日の大きな利益をもたらしたのです。

こうした周到な経営姿勢が大きな利益へとつながり、より堅固な財務体質の構築と相俟って、成長を持続させることができるとの自信を深めています。船腹需要が世界的規模で増大する中、業界随一の事業基盤を活用して様々な領域において更に積極的な事業展開を図り、より一層大きなリターンを株主の皆様にもたらすよう努めていきます。

更なるチャレンジで、逆風を乗り越える

船に対する旺盛な需要は今後も続くと考えていますが、2007年度の第4四半期から、燃料油価格の高騰と円高という逆風が吹きつづり始めました。特に、500ドル/MTを超えるレベルで推移する燃料油価格は、当社にとっては数百億円規模の費用の上昇要因になります。加えて、船員費、潤滑油価格、修繕費などの上昇といった損益圧迫要因も顕在化してきています。

しかしながら、こうした外部環境の悪化は成長を加速する中で乗り越えるべきハードルの一つに過ぎません。困難な環境下にあっても、2007年度の利益水準を持続させる力を、当社は備えています。顧客ニーズを的確に捉え、事業ポートフォリオをうまくコントロールしながら積極的にリスクを取り、更なる成長を目指します。また、船員や修繕ヤードなどが不足する問題が成長のボトルネックとなることのないように、先駆的な取り組みを進めていきます。

グローバル経済の多極的成長は海運業に新たな時代の到来を告げています。このような時代認識のもと、商船三井グループの持てる力を最大限発揮し、ますます多様化する顧客ニーズに応え、同時に株主の皆様の負託に応えていく所存です。

2008年6月24日

代表取締役 会長

鈴木邦雄

代表取締役 社長

芦田昭克